

(3) 北関東



北関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、_ は下方に変更)

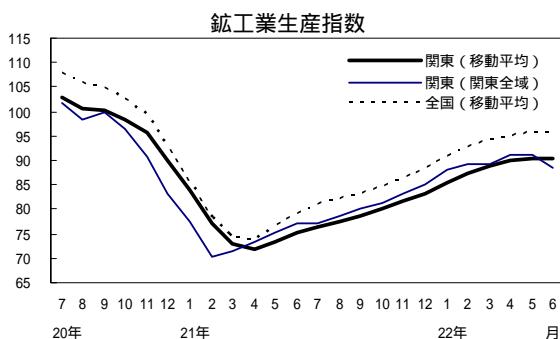
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)	
景況判断	持ち直している	緩やかに持ち直している	
鉱工業生産	持ち直している	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるものの、持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、エコカー補助金等の政策効果が続いていることや輸出が好調に推移していることから、普通乗用車及び普通トラックなどで、増加している。化学は、ポリプロピレンやエチレンなどで、減少している。一般機械は、海外向けにフラットパネル・ディスプレイ製造装置及び半導体製造装置などで、増加している。電気機械は、一般用タービン発電機や電子顕微鏡などで、減少している。



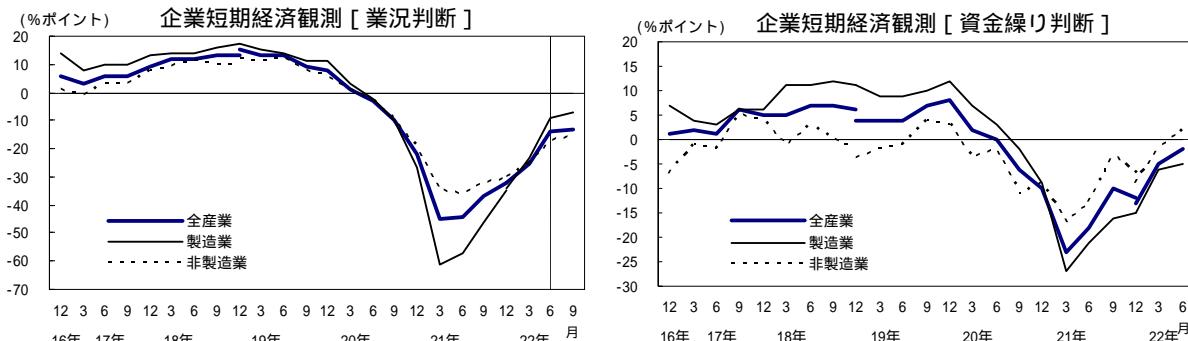
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

	付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)			
		生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	15.2	19.5	3.5	5.8	0.9
化学	13.4	3.5			
一般機械	13.2	22.5	16.1	15.7	3.1
電気機械	7.8	11.5	1.4	3.0	3.6
食料品・たばこ	7.1	3.3			
鉱工業	100.0	7.0	1.6	2.1	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

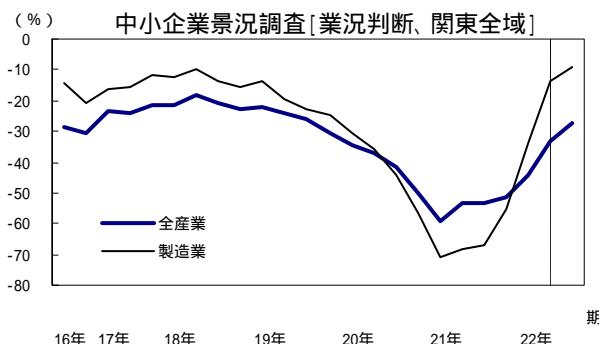
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)

(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

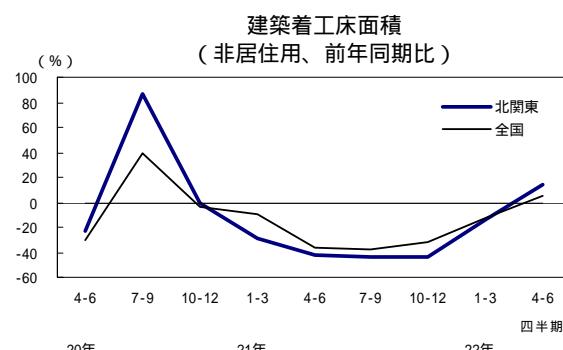
景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
「引き合いはあるものの、利益をあまり乗せられないでの、売上は上がっても利益が横ばいだ、と取引先が話している(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全 産 業	0.6	18.9 (0.7)
製 造 業	35.6	42.8 (-1.1)
非 製 造 業	40.5	50.1 (-3.1)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

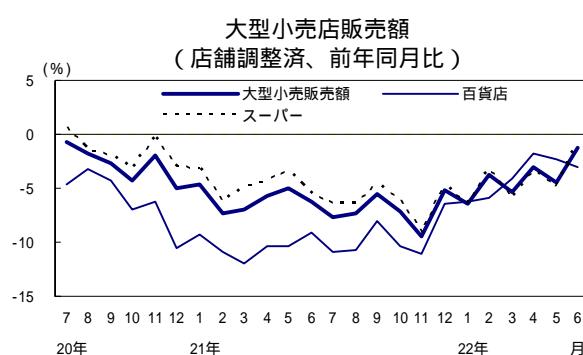
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、低温により春物衣料が低調だったものの、飲食料品がスイーツブームの影響から菓子類で好調なことから、前年比の減少幅が縮小した。5月は、母の日ギフトとして帽子やサングラスが好調だったものの、飲食料品でギフトの肉や酒類が低調だったことから、前年比の減少幅が拡大した。6月は、父の日ギフトとして柄ステテコやポロシャツが好調だったものの、中元商品の出足が悪く、ハムやのりの需要低迷により飲食料品が低調だったことから、前年比の減少幅が引き続き拡大した。

スーパーは、飲食料品で引き続き価格強化策による単価の下落があったものの、好天からアイスクリーム、ゼリー、冷やし中華などに需要があったことから、前年同期比の減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「中元ギフトを除いた店頭売上はほぼ横ばい」と変わらないが、中元商戦は前年を割り込み苦戦している。背景としては法人需要の更なる縮小と団塊の世代のギフト需要の縮減などが考えられる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

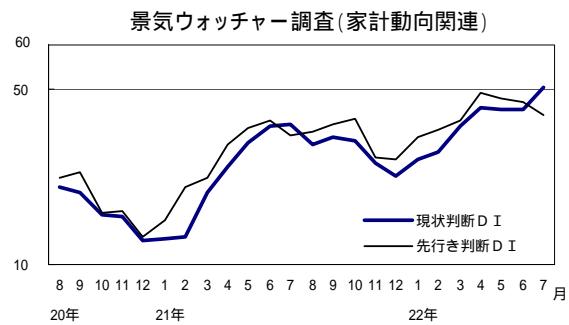
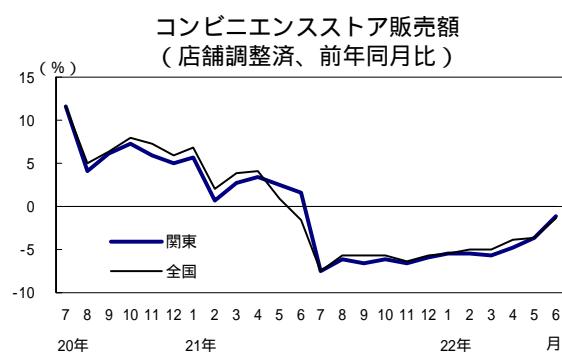


	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	6.8	7.1	5.3	3.0
百貨店	9.9	9.1	5.4	2.4
スーパー	5.9	6.5	5.3	3.1
乗用車	0.2	19.5	26.2	22.5
景気ウォッチャー	39.4	33.9	37.1	45.5

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年4-6月期は速報値。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は22年度累計でみると前年度を上回っている。

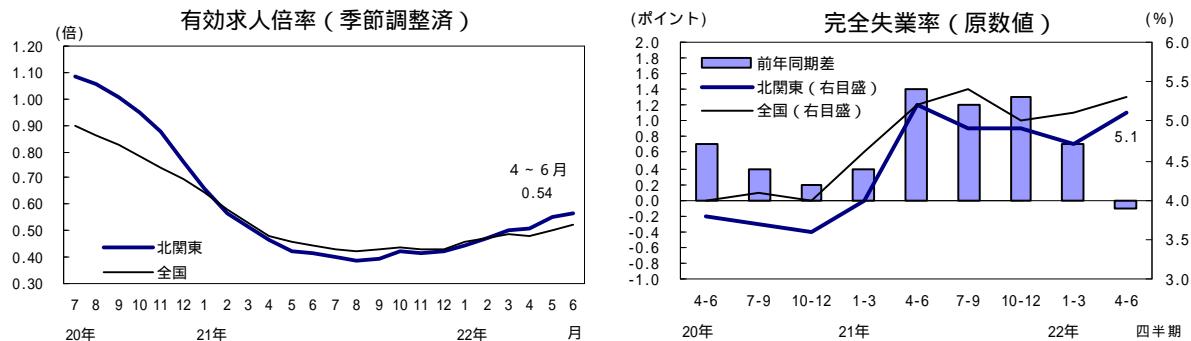


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



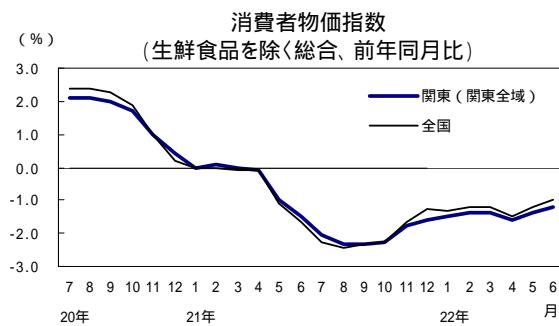
景気ウォッチャー調査 (6月)[雇用関連(現状)]

「求人広告誌で募集する企業が多少増えてきたものの、福祉、医療、サービス、流通などが多く、まだ周辺企業では景気の低迷が続いている(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数	182	216	208	176	50
(前年比)	14.6	7.7	24.6	23.8	20.6
負債総額	1,090	578	690	414	241
(前年比)	14.8	42.3	36.8	64.2	21.3



景気ウォッチャー調査 [合計(特徴的な判断理由)]

<現状> (7月)

・自動車産業が主要産業の当地では、エコカー減税・補助金の影響を受けて、残業等が多くなり、給料が上がっているという声が聞かれる(その他サービス[フィットネスクラブ])。

<先行き> (5月)

・円高がまた進みつつあり、製造業において収益力が低下し、再び雇用不安が芽生えつつある(金融業)。

